ふるさと意識をもとう

「あなたのふるさとはどこですか。」

こう尋ねられたら、あなたはどう答えますか。もちろんＴ（時）Ｐ（場所）Ｏ（場面）によるでしょうが、皆さんの多くは、町名を答えるのではないかな。私が中学生の時もそうでしたから。「瑞浪」と答える人も、多くないですがいるかもしれませんね。

ふるさとに対する認識は、その人の行動範囲によって異なると私は思っています。例えば、部活動で東海大会、全国大会に出場するような選手だったら、ふるさととしての認識に、瑞浪市、東濃地方だけではなく、岐阜県が加わるでしょう。また、昨年度他地区の行事や催しにボランティアとして参加した人であれば、その地区のできごとを身近に感じ、多少なりとも興味がわくのではないでしょうか。

私は大学生活四年間を関西で過ごしました。列車で帰ってくる度に、名古屋駅のホームに漂うきしめんの鰹だしの醤油つゆの香りをかぐ度に「ふるさとに帰ってきたなあ」と感じていました。中央線に乗るとワクワクし、多治見駅までくると興奮していました。釜戸駅につくと、帰ってきた実感がマックスに達します。行動範囲が広くなったからこそ、生まれたふるさと意識です。

縁あって、瑞浪北中の校区五地区（土岐町、明世町、日吉町、釜戸町、大湫町）との関わりが生まれました。これはあなたのふるさと意識を広げるには絶好の機会だと思います。本来なら、ボランティアや行事に参加して、直（じか）に他地区のよさを味わうのがベストです。しかし、それがなかなか難しければ、せめて自分で情報を積極的に集め、北中校区に対する愛情をもってほしいと思います。

今は、ケーブルテレビでも地域の情報を得ることができます。地域の情報を定期的に提供してくれるタウン誌も配付されています。市の広報誌にも、地域の記事がたくさん載っています。たとえ実物を目にしていなくても、こういうメディアを利用しても、ふるさと意識をもつことはできるのではないでしょうか。

いよいよ明日、大杉の写真が北中に搬入されます。大杉が倒れたことは、結構県外の方も知っているようですので、地元の人間として、知っておくべきだと私は思います。「瑞浪市の大湫というところに、大杉という御神木があったそうですね。」と話しかけられたとき、「私は見たことないから知りません」とは言えないですよね。「この人はふるさとのことを何も知らないな」と思われてしまいますからね。

（十月五日　記）